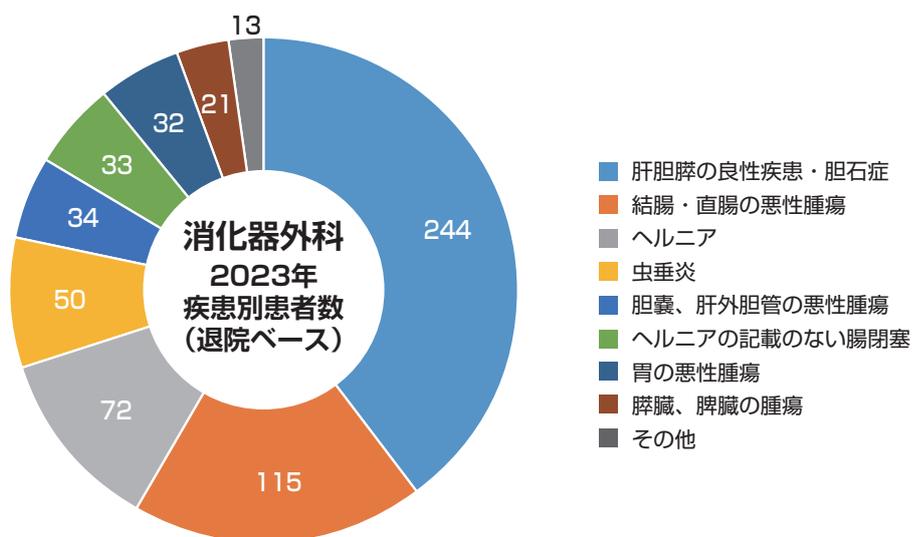


## ▶ 消化器外科 活動内容

消化器外科は、消化器がんや腹部の良性疾患（胆石症やヘルニアなど）に対する外科治療を、疾患の知識と経験を積んだ、学会認定の消化器外科専門医6名を中心に行っている。多くの消化器疾患に対しては、標準的な治療を示す治療ガイドラインが提示され、消化器外科ではこれらの治療ガイドラインを踏まえ、患者さんにとって安全で、最も効果の高い治療法を提供することに努めている。特に消化器がん治療においては、がんの進行に応じてより広い範囲を切除するなど根治性（完全に病気を治すこと）を追求するが、一方で、患者さんそれぞれの生活状態を加味して手術法や切除範囲を決定している。消化器外科の特徴は、体への負担が軽く、早期に退院や社会復帰が望める胸腔鏡・腹腔鏡手術を基本にしていることである。日本内視鏡外科学会の技術認定医（消化器一般外科領域）4名と経験豊富なスタッフを擁し、食道がん・胃がん・大腸がん・肝臓がん・膵臓がんなどの悪性疾患に加え胆石やヘルニア・腸閉塞などの良性疾患や急患手術に対しても、殆どの症例で内視鏡手術を行っている。さらに2023年3月からは、これまで腹腔鏡下手術で行なってきたリンパ節郭清を伴う直腸がん・胃がん手術、一部の良性疾患に対する直腸切除術や胃切除術をダビンチ Xi を使用したロボット支援下手術で行なっている。治療方針は、消化器外科カンファレンスに加え、消化管内科・肝胆膵内科・腫瘍内科・放射線科・病理診断科と綿密に連携をとり毎週の定期的なカンファレンスを行うことで、多職種の医療従事者の意見も聞きながら決定している。心臓や肺など様々な疾患を持った患者に対しても、基幹病院の特徴を生かし各科の専門医師の協力連携のもとに、安全に手術を行うことが可能な体制を整えている。

## ▶ 消化器・一般外科 入院患者数



▶ 疾患別入院患者 年次推移

